



東京歯科大学 歯科放射線学講座

画像診断は患者さんの運命を決める

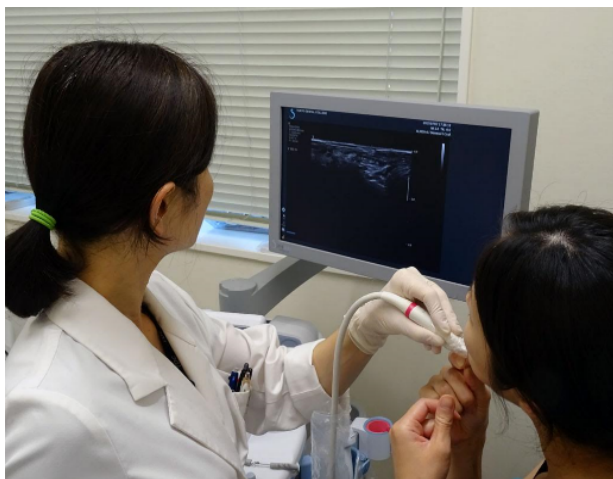
臨床診断

病理診断

治療方針

画像診断

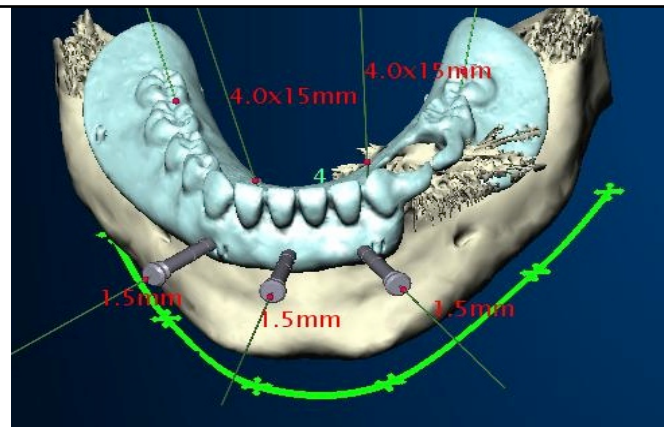
今年から放射線科に最高級の
超音波装置、CBCTが入りました

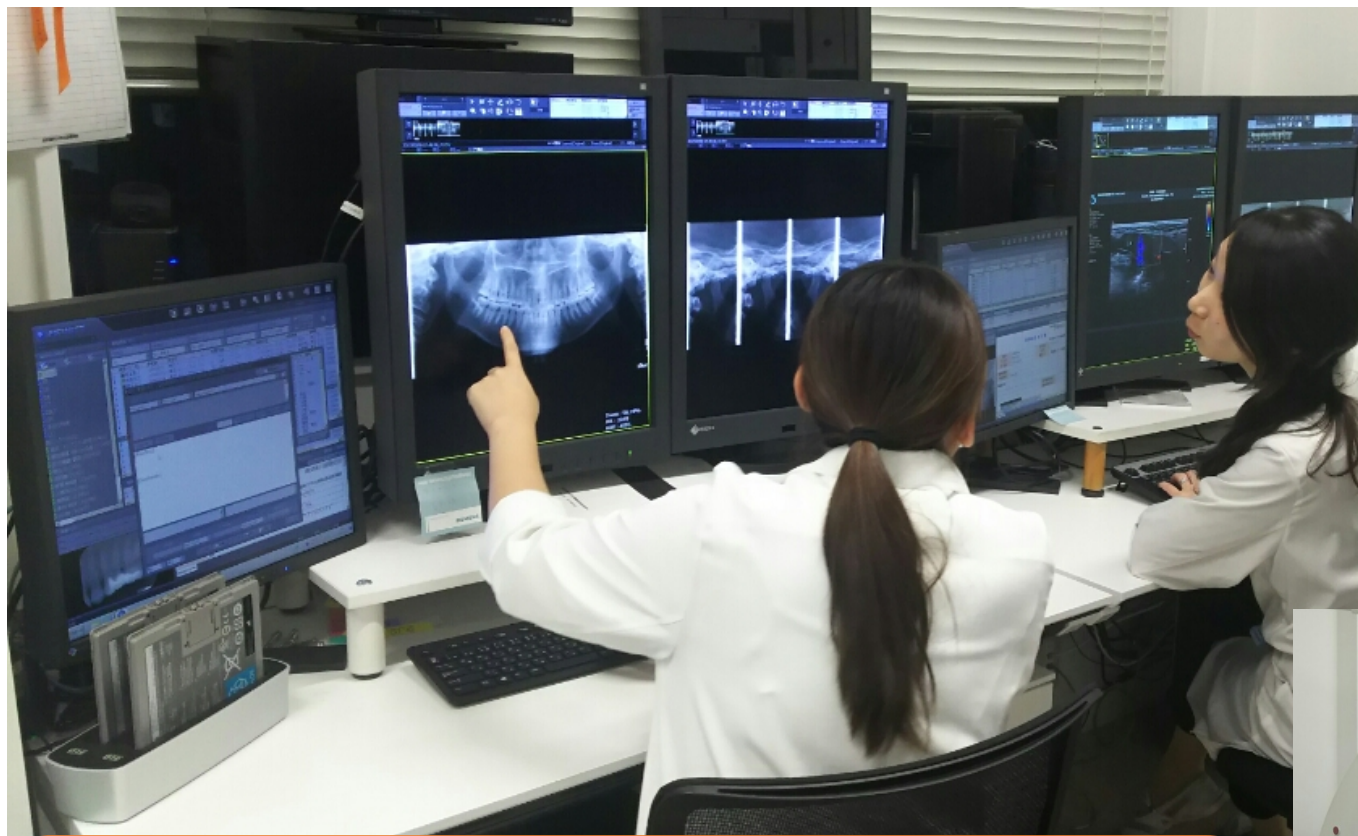


院内連携が不可欠：コミュニケーション力がつく



保存科、補綴科、口腔外科、矯正歯科、小児歯科、
スペシャルニーズ歯科、ペインクリニック科、歯科麻酔科、
口腔インプラント科、健康スポーツ歯科、
摂食嚥下リハビリテーション科、臨床検査部、内科、眼科





検査技術も
読影スキルも
身につく

取得可能な資格



特定非営利活動法人

日本歯科放射線学会

Japanese Society for Oral and Maxillofacial Radiology

- 歯科放射線准認定医（１年）
- 歯科放射線認定医（２年）
- 歯科放射線専門医（５年）
- 歯科放射線指導医（５年、主著１０編）

歯科放射線専門医は広告できる

- 顎関節専門医、指導医も同時に取得可能

大学院生について

平成29年度顎骨疾患プロジェクト大学院生研究助成受賞

教授が直接指導！
(いろんな話が聞けるよ)

1年

倫理審査申請 研究開始

2年

研究 国内学会発表

3年

研究 論文執筆 国際学会発表
認定医試験

4年

論文投稿 学位審査 留学準備

大学院生の一日

	月	火	水	木	金	土
8:45～9:00	外勤日 （歯科治療）	朝カンファ（前日の全症例）				研究 等
9:00～12:30		研究	外来	研究	研究	
12:30～13:30		昼休み	医局会	勉強会 （予演会、研究報告会など）		
13:30～		研究	講義参加	フィルム カンファ	研究	
				研究		

* その他、セミナーや講義もあります！

研修先

一般歯科も続けながら
勉強できます

開業歯科医：歯科治療

八重洲画像センター

病院内歯科

放射線医学総合研究所

市川総合病院

など

研究

歯学、医学、工学、理学、文系、基礎系など

研究の内容、場所 選択は自由

将来構想に合わせて

ローカル、グローカル、グローバル

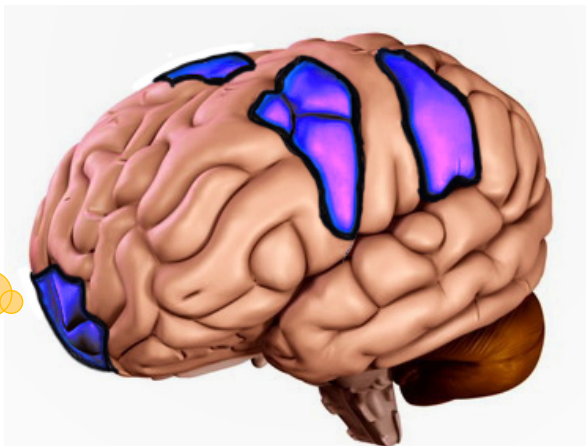
やさしい研究から世界レベルまで

豊富な留学先

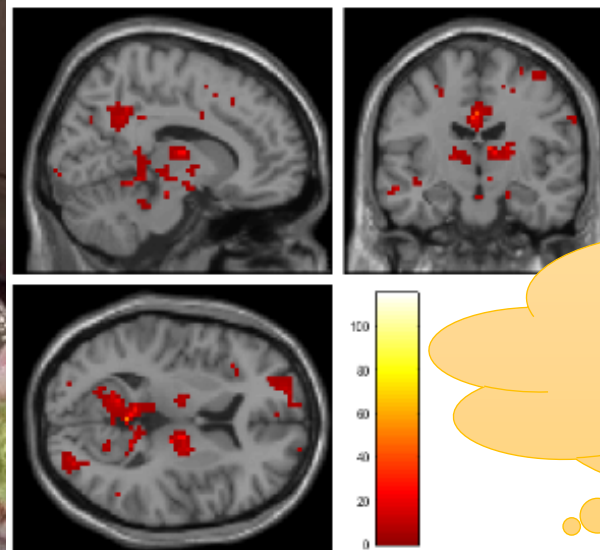


国内、国外あちこちに
研究場所があります

感覚を見る
脳を診る！



教授が直接指導



美味しさと健康長寿
のための脳機能研究

脳機能MRI (fMRI)

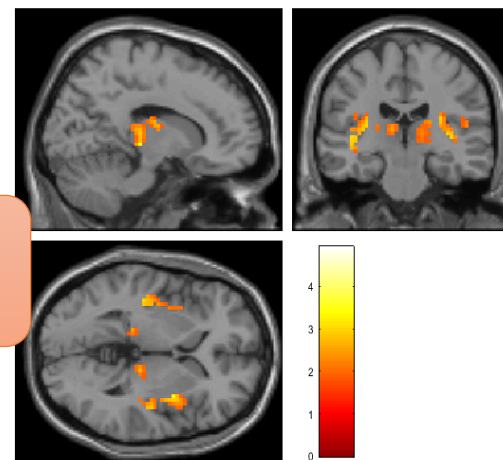
臨床画像診断研究



少人数でも
研究 頑張ってます



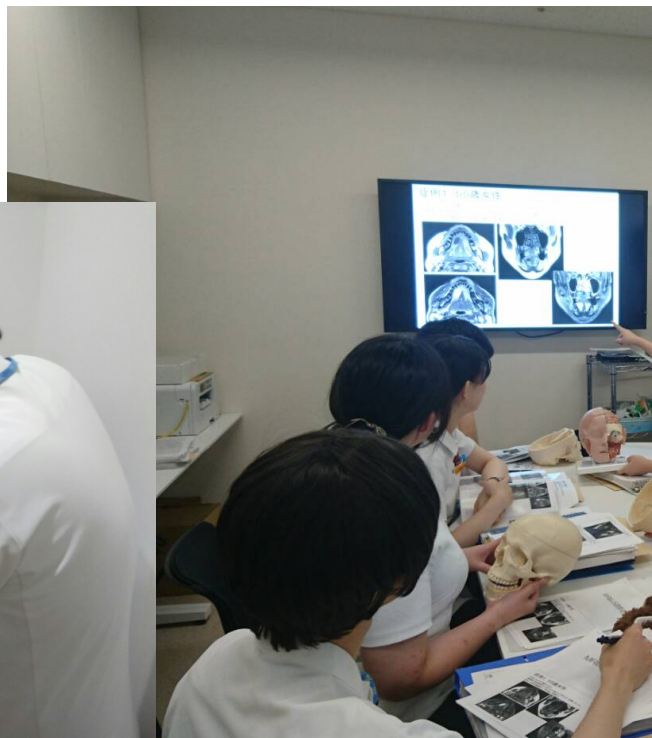
学部生も参加歓迎



教育

2年生	医学英語
3年生	画像解剖
4年生	講義・基礎実習
5年生	臨床実習
6年生	総合講義

TAになって
活躍しよう



共同・連携研究先

- ・ 香港大学歯学部（QS大学歯学部ランキング2年連続世界一）
- ・ 東大医学部
- ・ 東京医科歯科大学歯学部
- ・ 名古屋大学文学部
- ・ 企業数社

すでに研究進行中

- ・ 慶応医学部
- ・ 産業技術総合研究所
- ・ 放射線医学総合研究所
- ・ 東大
- ・ 海外十数カ所（治安の良い大学）

はいつでも共同研究や留学できる体制です。

- ・ 研究は普段から日本語、英語（留学の練習） どちらでも。

後藤多津子教授の道のり

九州大学歯学部をグライダー事故のため1年遅れで卒業

九州大学大学院 博士課程 歯学研究科 修了

九州大学歯学部 研究生、九州大学病院 医員

The University of British Columbia, Faculty of Dentistry, Postdoctoral Research Fellow

The Hospital of Sick Children, University of Toronto, Faculty of Medicine, Clinical Observer

九州大学病院 歯科放射線科 医員

九州大学 歯学部 歯科放射線学教室 助教

九州大学病院 口腔画像診断科 講師

The University of Hong Kong, Oral Diagnosis and Polyclinics, Associate Professor and Chair

東京歯科大学歯科放射線学講座主任教授

Honorary Professor, Faculty of Dentistry, The University of Hong Kong



▶ 歯科放射線学とはどのような学問ですか？

疾患を特定し最適な治療方針を決定するためには、問診や視診による臨床診断とともに画像診断や病理診断との連携による総合的な診断が極めて有効です。画像診断は、外からは見えない体内を可視化し、“どこに”、“どんな疾患があるのか”についてさまざまな情報を提供します。このように診断において重要なエックス線画像、CT、MRI、核医学などにおける画像所見と各種疾患との関連性についての研究を行っています。

また、医用画像で形態を診ることは当たり前となってきた今、味覚、痛みといった感覚や疾患の心理への影響など、いまだ見えないものを可視化し定量化することで、より多くの患者さんを救いたい。その実現のために多種多様な仲間と世界最先端の研究を進める、これが歯科放射線学の醍醐味です。

画像診断学は科学技術の発展に伴って発展がめざましく、常に新しい情報が必要とされる学問でもあります。「見えないものを可視化する」ためには、歯科はもちろん、医科、工学、理学、心理学といった学問にも関連するため、他大学と、そして海外とも

チームを組んで研究を行っています。

▶ 多種多様な研究仲間が必要であると感じたきっかけはどんなところですか？

学生時代のグライダー部でさまざまな学部や大学の部員たちと活動するなかで、壁のないチームが生み出す成果を体験しました。また、大学院卒業後にブリティッシュコロンビア大学でMRI研究を学び、その後トロント大学で頭頸部画像診断を学びました。そこは、ランチタイムでも症例を見ながらのミニレクチャーがあるなど、臨床トレーニングのみならず、「いかにして学ぶか」が自然と身につく環境でした。そして、2010年から香港大学歯学部(世界ランク1位)に日本人初のアカデミックスタッフとして選ばれ、准教授兼科長としてあらゆる学部の学生たちと研究、教育、臨床などに携わりました。これらで培った経験を踏まえて、日本にも開かれた研究環境が必要だと考えました。

多くの経験をし、国内外問わずたくさんの友人をつくり、世界最先端の思考と技術で目の前よりもっと未来の課題を追いかけていく。将来を担うみなさんのために、楽しく学べる最善の環境を整えています。



3人の子の母親
なので日本の
若者の気持ちも
わかります



大学院生
大歓迎



歯科放射線学講座 主任教授 後藤多津子



tkgoto@tdc.ac.jp



待
っ
て
る
よ
う

